

おひざのうえで 2026②

(副園長の子育て応援 Letter)

「ハプニング」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



ゴールデンウィーク、皆さまはどのように過ごされましたか？

我が家には、東京から長男家族が帰省しました。到着した3歳の孫を出迎えて、まず目に入ったのが…なんと「片足だけの靴」！思わず二度見しました。

話を聞くと、品川駅のホームと新幹線のすき間に、片方の靴を落としてしまったとのこと。我が家に到着した頃にはすっかり気持ちも落ち着き、ケンケンしながらおどけて笑わせてくれましたが、靴を落とした瞬間はきっと大変だったと想像します。

予想通り、新幹線の中では大泣きで大暴れ。「今すぐ降りる！」という勢いだったそうです。そんな中でママは、「新幹線が動いているときは線路に降りれないから、新幹線が止まってから拾ってくださいって駅の人をお願いしておくね。帰りに取りに行こうね。」と何度も説得したそうです。新幹線が大好きな孫は、シクシク泣きながらも少しずつ納得し、やがて座席に座ることができたそうです。

子どものお出かけには、ハプニングがつきものですね。移動ひとつとっても一苦労。でもその中で、どうしたらこの状況を乗り越えられるか、どうしたら楽しく過ごせるかを、親も子も一緒に考えていきます。その経験も、子どもにとって大切な「生きる力」になっていくのだと思います。そんな出来事ほど、あとから笑い話や思い出に変わっていくものです。ばあば(私)はちゃっかり、片足ケンケンでやって来た孫の姿を連写してしまいました。



さて、幼稚園では、新入園の子どもたちが少しずつ園生活に慣れてきました。その分、自分の思いもはっきりと出せるようになってきています。

「まだ園庭で遊びたい」

「年長さんのお部屋で給食を食べたい」

「先生と二人で、外を見ながら食べたい」

「サッカーボールは一人で使いたい」

「今すぐママに会いたい」

どれも、子どもにとっては“どうしても”の大切な気持ちです。園では、そんな思いに寄り添いながら関わっています。こだわる気持ちをしっかり出し、十分に受け止めてもらうことで、子どもはやがて自分で気持ちを切り替えられるようになっていきます。

先日、泣いている年少組の子の背中を優しくさすりながら、「もうすぐママ来るよ。絵本読もうか。」と顔をのぞき込んで声をかけている年中組の子がいました。去年、先生の膝から離れないで泣いていた子です。こうした育ちを、私たちはこれまで何度も見てきました。だからこそ、目の前の“こだわり”も大切な成長の一步として、あたたかく見守ることができます。子どもは、自ら育つ力を持っていますから、その力を信じて、今日も一人ひとりの気持ちに寄り添っていきたいと思います。

また、5月5日の子どもの日。あらためて子どもたちを取り巻く環境について考える機会でもありました。今年のニュースでは、日本の子どもの数が45年連続で減少し、過去最少となったことが報じられていました。15歳未満の子どもは人口のわずか1割ほど。かつての半分以下になっているという現状に、あらためて驚かされます。

子どもが少なくなった今、一人ひとりの存在は、これまで以上にかけがえのないものになっています。「大切に育てたい」という思いは、どのご家庭にもあると思いますが、子どものためにとまってつい先回りしてしまったり、困らないようにと手を差し伸べたくなることもあるかもしれません。でも、子どもにとって本当に大切なのは、すべてを整えてもらうことではなく、自分で感じ、考え、乗り越えていく経験です。転びそうになったときにすぐ支えるのではなく、「どうするかな」と少し見守る時間。うまくいかなくて悔しい思いをしたときに、「そうだよ」と気持ちを受け止めてもらう経験。そうした積み重ねが、子ども自身の力になっていきます。もしハプニングが起きたら、子どもと一緒に次を考えることでいい経験に塗り替えていきたいですね。

子どもの日は、「元気に大きくなってほしい」と願う日です。その“元気”とは、ただ体が丈夫というだけでなく、自分の力で一步を踏み出せる心のたくましさでもあります。どうか、日々の中で見せる子どもたちの小さな挑戦や葛藤を、あたたかく見守ってあげてください。そして、できたときには一緒に喜び、うまくいかないときにはそっと寄り添う。その繰り返しで、子どもたちの未来をしっかりと支えていきます。子どもたち一人ひとりが、自分らしく伸びていけるように。そんな願いを込めて、これからもご家庭と一緒に歩んでいけたらと思います。

話は戻りますが、連休中は孫4人が我が家に連泊し、大騒ぎでした。10分に1回は何かが起こるような賑やかさで、目が回りそうになることもありましたが、育っていく先の姿を思うと、どれもこれも愛おしい出来事。小学校1年生になったお姉ちゃん二人とは、おしゃべりを楽しみながら果物屋さんへ出かけたり、庭の花を摘んでお花屋さんごっこをしたり、ひらがな麻雀というゲームをしたり。そんな何気ない時間に、心が満たされました。時には怪獣のように暴れる3歳の弟を、上手になだめる姿には、「ああ、こんなふうには育っているんだな」と感じさせられました。

そして思わず吹き出してしまったのが、4歳の孫。電車を連結して遊びながら、「でんしゃがきます。ごちゅういください。…くつをせんろにおとさないでください。」と、アナウンス。ハプニングも、涙も、笑いも、ぜんぶ子どもたちの中でちゃんとながって、次の姿へと育っていくのだなあと、感じた連休でした。